

2020(R2)年度 卒業時調査結果と年度間比較報告書

2021年7月

IR委員会/教育・学修支援センター

目次

1. 調査の概要	1
2. 所属の学科・専攻にどの程度満足していますか	3
3. 共通教育	3
4. 外国語教育	4
5. 情報教育	4
6. 専門課程の教育	4
7. ゼミ・演習	6
8. 教員	6
9. 図書館	7
10. 就職支援(企業等)	7
11. 学習環境	7
12. 所属学科への進学推奨	9
13. まとめ	9

1. 調査の概要

本報告書は、大阪大谷大学における2021年3月期(2020年9月末卒業生を含む)の卒業生を対象として、本学に対する満足度を把握するために実施したアンケートの結果を集計したものである。調査は、卒業研究論文の提出締め切りや卒業判定の結果、卒業が確定した学生を、本学のLMSであるmoodle上に設置された各学科別の「卒業時アンケート」のコースに登録して、随時回答してもらう方法で回収した。締め切りは3月19日(9月期卒業生は9月末)までとし、各学科の都合により、適宜締め切り日を調整した。

一方、今年度も昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症対策のために、卒業式については実施こそされたものの、午前・午後の2部制とした他、出席者も卒業生と一部の関係者、並びに教職員のみという対応となった。そのような中でも、各学科IR委員、ゼミ・アドバイザー教員、卒業生の協力によって、昨年度を5%も上回る95.5%の高い回答率を維持することができた。IR関係の研究会や学会等でも、「Web方式によるアンケートの回答率が低いのは当然」との共通理解がある中において、飛びぬけて高い回答率を維持・継続できている。これは、IR委員から各学科の教員に対してタイムリーな未回答者リストの提供と回答督促依頼が行われたことや、moodleの機能を用いて未回答者に対して「個別督促メール」を送信したことが有効に作用した結果であると考えられる。また、これらの取り組みを複数年に渡って継続してきたことで、ゼミ・アドバイザー教員らに、各種調査の回答率向上に協力しようというマインドが醸成されつつあるからだと考えている。

表 1 調査の回収状況

	回答数	卒業者数	回答率(%)	R1 回答率
日本語日本文学科	52	56	92.9	41.2
歴史文化学科	40	42	95.2	82.0
教育学科幼児教育専攻	106	117	90.6	94.1
教育学科学校教育専攻	76	77	98.7	98.9
教育学科特別支援教育専攻	33	33	100	97.1
人間社会学科	74	76	97.4	100
スポーツ健康学科	109	110	99.1	97.4
薬学科	119	127	93.7	90.3
全体	609	638	95.5	90.5

今年度は、昨年度の課題であった IR 委員とゼミ担当の教員間で督促に関する連携面がうまく機能した。具体的には、昨年の反省点を生かして各々の役割分担を調査実施前から実施中にかけて密に確認するとともに、センターを中心とした支援体制を構築した。このことから全ての学科・専攻において 9 割を超える高い回答率を得ることができた。

なお、昨年度の日本語日本文学科の値は 41.2%という極めて低い回答率の中で算出されたものであり、92.9%の回答率であった今年度と単純に比較することは適切でないと考えられるので、昨年度の値は参考値と位置付け、深く考察することはしない。

【※表 2～10 について】

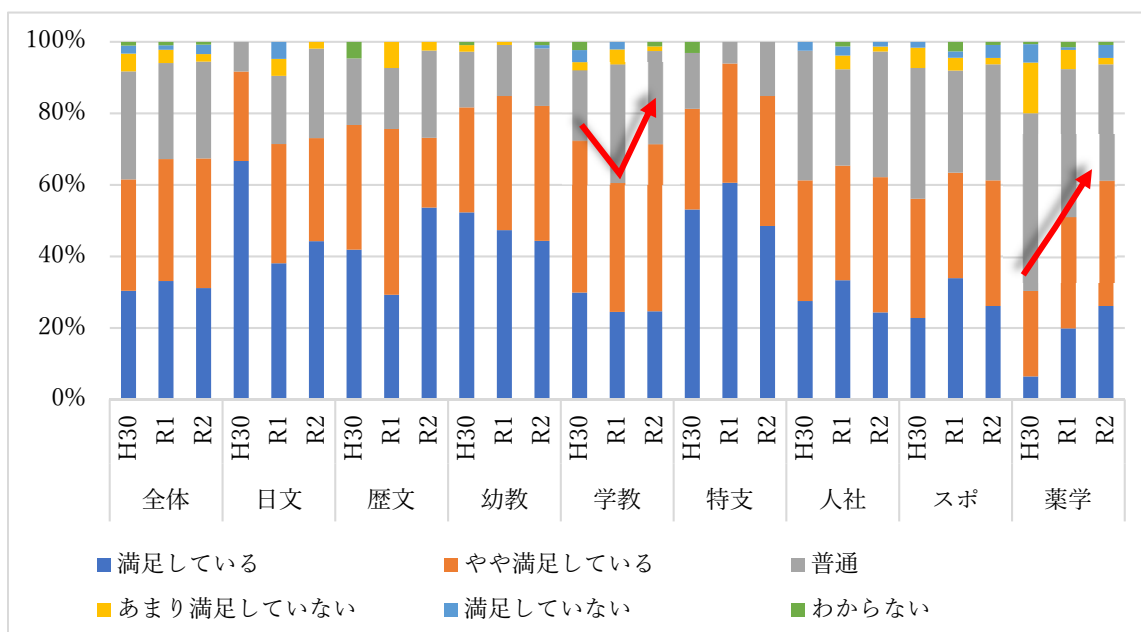
- ・各数値の単位は%であり、小数第 1 位を四捨五入して整数値で表した
- ・教育学科の 3 専攻(幼児教育・学校教育・特別支援教育)は、まとめて「教育」と表記した

〈満足・普通・不満足・その他 の表記について〉

- ・満足している+やや満足している ⇒ 「満足」
- ・普通 ⇒ 「普通」
- ・あまり満足していない+満足していない ⇒ 「不満足」
- ・わからない ⇒ 「その他」

2. 所属の学科・専攻にどの程度満足していますか

図1 所属の学科・専攻への満足度



- ・R1 年度と比べて多くの学科・専攻で満足群が減ったが、割合としては微減に留まっている。また、学教は R1 年度については満足群が落ち込んだが R2 年度は回復した。
- ・薬学では、満足群が増え続けている。

3. 共通教育

表2 共通教育への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	80	43	62	19	48	35
歴文	63	59	71	35	32	17
教育	63	66	64	31	29	31
人社	47	46	51	29	42	45
スポ	45	62	54	37	31	41
薬	17	34	34	54	53	45
全体	62	55	55	30	37	36

・3年間の推移をみると、満足群が概ね6割に達する。卒業生にとっては、共通教育科目を履修した時期が3年（薬学の場合は5年）も前のことでありながらも、満足群と普通群でほぼ9割になる。R1年度に引き続き、「1回生の頃を振り返って概ね満足できている」あるいは「共通教育科目で幅広い学問領域を学ぶことが学生から支持されている」と考えられる。

4. 外国語教育

表 3 外国語教育への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	61	38	46	33	52	42
歴文	44	44	44	47	34	39
教育	40	42	43	41	39	45
人社	47	41	34	38	36	55
スポ	39	51	36	50	34	45
薬	11	19	13	50	41	52
全体	49	40	35	39	39	47

- ・全体の「満足」が50%に達していない（H30, R1 も同じ傾向）。
- ・薬学を除く全ての学科で満足群と普通群を合わせて8割以上となっている。薬学の満足群が他学科に比べて少ないのは、「薬学英语」などの実践的な英語科目の内容や難易度の問題や、卒業研究などで英語の文献を読む際に困難が生じた等の要因が考えられ、さらなる検証が必要である。

5. 情報教育

表 4 情報教育への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	67	52	52	28	43	38
歴文	51	44	46	40	29	37
教育	46	45	44	44	42	44
人社	53	49	51	39	44	43
スポ	38	52	40	50	38	47
薬	16	21	23	55	55	47
全体	40	41	41	45	45	44

- ・全体の「満足」が40%程度にとどまっている（H30, R1 も同じ傾向）。
- ・デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展という社会基盤変化の中で、1回生で履修する「コンピュータ技術基礎Ⅰ」「情報薬学基礎演習」という科目だけという授業の設定は、明らかに不足していると思われる。現在、内閣府・文部科学省・経済産業省の3府省が連携し、各大学・高等専門学校における数理・データサイエンス・AI教育の取組を奨励されており、本学でも教育・学修支援センター、情報教育センター、DX推進ワーキンググループが連携して本学の情報教育のあり方を検討するタスクフォースを発足させるなど、本

格的な準備に入っている。ただ、これらの“情報教育科目”は、コンピュータ関連の内容を取り上げているという印象が強い。文書作成、問題解決における情報収集・データ取り扱いの発想・スキルは社会人基礎力であり、従来の「コンピュータ関連」ではない。また、昨年4月から、新型コロナウイルス感染症対策として一斉に導入した ICT 利用学習環境は、「1 回生で情報教育を履修した後にその力を他の科目で使う」といった従来型履修モデルでは対応できないことを明確にした。その反省より、今年度（R3 年度）は、新入生へのパソコン必携化と合わせて、前期授業開始前に、新入生を対象とした「遠隔授業を受けるための研修会」を教育・学修支援センターの企画のもとで実施し、入学前教育で基本的な学修スキルの獲得を図った。ネットワーク環境、ICT 学修支援、オンデマンド授業、同時双方向授業についての満足度については昨年度の学生満足度調査より調査項目としているが、これを卒業時調査においても尋ねる必要があるかについては検討を要する事項である。

6. 専門課程の教育

表 5 専門教育への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	91	67	73	8	24	23
歴文	81	68	88	14	29	12
教育	86	78	79	14	18	19
人社	79	67	68	16	28	30
スポ	50	71	64	32	28	31
薬	34	55	53	50	38	34
全体	69	70	70	25	26	25

・R1 年度に引き続き、いずれの学科も満足度が高く、満足群と普通群でほぼ 95%を超えることから、今後はこれを維持していくことに注力すべきだと考えられる。つまり、満足度調査や年 2 回の授業評価アンケートの結果と連動させ、不満足群の要因を分析して、個別に対応せざる得ないものと、受講者全員に効果が期待される修正内容に分けるべきであると考えられる。

7. ゼミ・演習

表 6 ゼミ・演習への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	95	81	81	0	10	17
歴文	86	88	83	12	10	15
教育	84	85	81	10	11	15
人社	85	77	80	11	21	19
スポ	84	84	76	14	12	21
薬	54	76	64	37	19	29
全体	78	81	77	17	15	20

・R1年度に引き続き、いずれの学科も満足度は高止まりの傾向にあり、満足群と普通群でほぼ95%に達することから、今後はこれを維持していくことに注力すべきだと考えられる。ただし、R1年度やH30年度と比べて満足群の割合が下がり、普通群の割合が高くなった学科・専攻が多く見られることについては、今後の推移を注視していく必要がある。

8. 教員

表 7 教員への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	92	71	71	6	14	25
歴文	91	83	90	7	15	7
教育	76	75	64	18	21	31
人社	78	67	61	20	27	30
スポ	68	68	69	21	25	24
薬	36	60	50	39	29	34
全体	66	69	67	23	25	26

・薬学を除き、いずれの学科も満足度は高い。薬学については、満足するための基準が他学科と質的に異なっているとも考えられる。また、教育・人社については満足群の下げ幅が大きかったので、薬学と併せて詳細な原因分析が求められる。

9. 図書館

表 8 図書館への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	92	76	75	6	14	15
歴文	65	78	78	26	17	15
教育	73	71	58	19	24	30
人社	69	60	47	19	33	35
スポ	44	49	45	36	31	31
薬	29	36	30	40	43	41
全体	58	57	52	26	32	31

・比較的高い満足度を維持することができていると考えられるが、学科によっては結果に差があるため、全ての学科のニーズを満たしているかどうか検証する必要があるかもしれない。加えて、昨年度は新型コロナウイルス感染症拡大の影響を受け、卒業年次の学生にとって卒論を遂行する上で重要な施設である図書館が、使いづらかった（4月は休館、5月ごろから予約制及び人数制限での開館）ということが影響している可能性も考えられる。

また、昨年度の報告において、『この項目は「大学のサービスに対してどの程度満足していますか」の設問の中にあり、施設に対する満足度を尋ねているのではないから、“図書館と学術データベース・サービス”に変更した方が、実情に沿っていると考えられる』と考察しているが、本年度の調査より変更をするか本格的に検討を行うべきであろう。

10. 就職支援(企業等)

表 9 就職支援(企業等)への満足度

	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	75	43	40	11	29	31
歴文	49	51	46	33	22	32
教育	49	50	46	14	25	20
人社	56	60	45	31	26	36
スポ	57	47	52	28	28	23
薬	24	33	27	37	35	34
全体	47	46	43	25	29	27

・多くの学科で、満足群が減少し、普通群が増加していることに注視していく必要がある。このことに関しては、昨年度、新型コロナウイルス感染症拡大に伴い新卒採用を見送ったり採用する人数を減らしたりする企業が相次いだことや、これまで例のなかったオンラインでの採用面接を実施する企業が増加し、それまでのキャリアセンターによる就職指導だけ

では対応できなくなったこと、また、上記のような状況にも関わらず登学することが難しい状況であったことが、満足度に影響を与えている可能性が考えられる。

11. 学習環境

表 10 学習環境への満足度

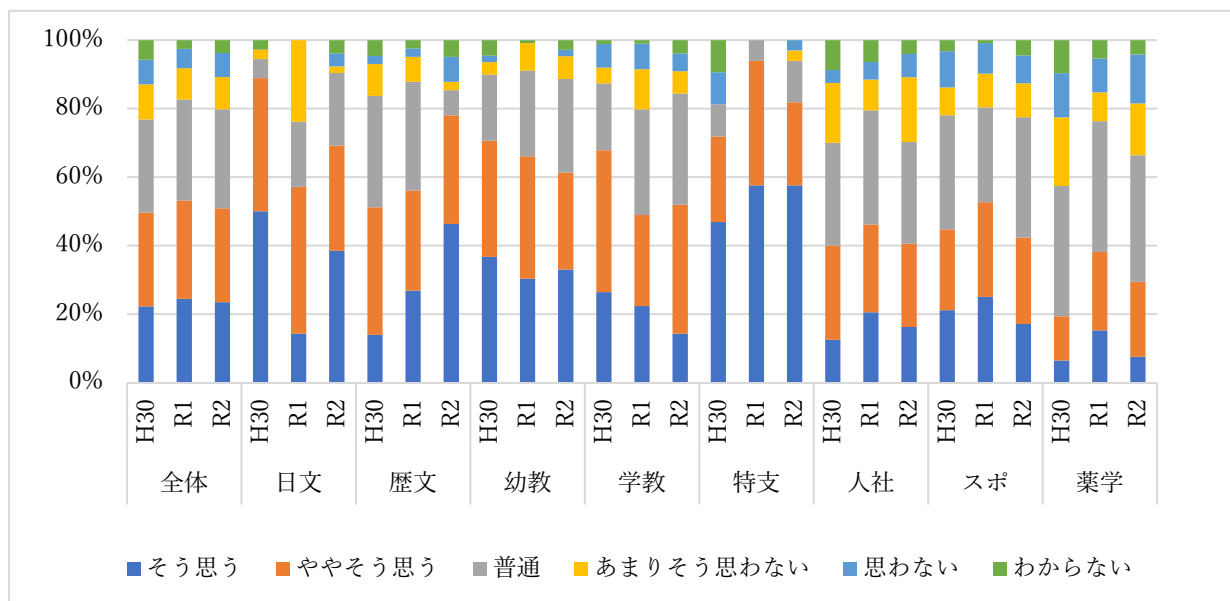
	満足			普通		
	H30	R1	R2	H30	R1	R2
日文	77	43	60	17	29	19
歴文	56	59	56	33	24	37
教育	61	56	50	25	32	36
人社	42	55	34	43	32	50
スポ	38	53	51	48	31	39
薬	30	49	34	37	31	37
全体	48	53	46	33	32	37

・H30、R1 と比べ、満足群の増減についてバラツキが見られた。特に、日文は 17%増に対して、人社は 21%減、薬も 15%減と顕著であった。

・校舎の老朽化、設備の不足は大きな不満要因であると推察される。また、昨年度は 4 月以降学生が登学禁止となり、一斉に遠隔授業を受講せざるを得なくなった。ICT 環境（特にネットワーク）は、主要な学習環境であり、それが整備されているか否かということに加え、各学科の授業が遠隔授業とどの程度親和性があったかということや、教員の ICT に対するスキルの有無が今回の満足度に影響したことも考えられる。今後、学習環境の中に何が含まれるのかを設問に明記する必要があるだろう。

12. もし身近にあなたの所属学科・専攻への進学希望者がいる場合、大阪大谷大学の所属学科・専攻の進学を勧めたいと思いますか

図2 在籍学科・専攻への進学を勧めたいか



- ・全体では、肯定群が3年間約50%となり大きな変化はない。
- ・R1年度は日文では回答率が半減しているため(88%⇒41%)、単純な比較はできない。
- ・学教ではR1年度、満足群の顕著な減少(68%⇒49%)がみられたが、R2年度も52%と30年度の水準にまでは回復していない。また、昨年度に総合的指標が大きく改善(72%⇒94%)した特支についても、今年度は82%まで再び落ち込むなど、原因の調査と改善が望まれる。
- ・薬学では、R1年度満足群が明確に増加し(19%⇒38%)、これまで指摘してきた改善の効果が現れてきていたが、R2年度は29%と再び減少した。これまでの報告においても言及した内容ではあるが、薬学の調査結果は、卒業試験や薬剤師国家試験等との関係により大きく変動することが判っている。併せて見ることも必要であろう。

13. まとめ

本調査における満足群+普通群の経年変化を概観すると、①共通教育、外国語教育、情報教育といった卒業生にとって過去の科目と位置付けられる項目の満足度は、やや低めを維持しており変化が少ない、②過去の調査と同様に卒業前1~2年の学習経験が卒業時の満足度を支えている可能性が高い、③新型コロナウイルス感染症拡大が学習環境や就職といった点に影響を与えている可能性がある、といったことが確認された。今回の調査では、高い回答率を確保することが可能となったが、今後は卒業時調査のみならず、高い回答率の確保に加え調査結果の分析と学科へのフィードバックが必要になってきている。昨年度の報告でも言及した通り、「PDCAサイクルを回す」という観点では、本調査は在学期間完了時の振り返り“C”であり、かつ次年度の事業計画や授業設計などの完了後に実施しているという

点で、結果を次の“A”につなげ難いという問題を内包している。卒業時に「在学中の満足度を全卒業生に問いかける」だけでなく、当該学年の満足度の経年変化とも関連付け、満足度の増加・減少に影響を及ぼした改善内容を知ることができるようにすべきだと考える。今後は、卒業時調査の結果だけでなく、他の調査との関連についても分析を進めたい。

以上